

2022年度 日本工学院専門学校											
A I システム科											
プレゼンテーション											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	岩堀 信一			実務経験	有	職種	システムエンジニア／プロジェクトマネージャ				
担当教員紹介											
担当教員は、主に金融分野・公共分野におけるシステム開発にシステムエンジニア・プロジェクトマネージャとして従事。提案、要件定義、開発、テスト、運用のシステムライフサイクル全般に渡る実務経験有り。米国PMI認定PMP、AWS認定ソリューションアーキテクト-アソシエイト、日本ディープラーニング協会G検定等の資格を有する。											
授業概要											
プレゼンテーションのアイデア出し（ブレインストーミング、カード化など）を行い、プレゼンテーション全体のストーリーを作る。 PowerPointで効果的な資料作成を行う。プレゼンテーションを実施する。個人発表とグループ発表を行い、個人またはグループごとに振り返りを行う。聞き手はチェック表などを記入し他者評価を行う。発表者は自分をビデオ撮影し自己評価を行う。両者とも発表者に対してフィードバックを行う。											
到達目標											
自分に与えられた条件を吟味し、プレゼンテーションに必要なものを整理できるようになる。聞き手に伝わるためにはどのようなストーリーで、どのような資料を作成するのかなど、良いプレゼンテーションを行うためのアイデアが出せるようになる。資料作成ツールであるPowerPointが使いこなせる。特にビジュアルコンテンツを有効に活用できる。実際にプレゼンテーション（ライトニングトーク）を行い、人前で発表できる。就職活動や卒業制作発表時に役立てることができる。											
授業方法											
社会人に一番必要となる素養はコミュニケーション能力と言われている。コミュニケーション能力が必要とされる場面は、マンツーマンで一人の相手と対応する場合、プロジェクトグループなど少人数の集団の中でのコミュニケーション、そして1対多数を相手とするプレゼンテーションの場面などである。主に多数人相手のプレゼンテーション技術と心構え、更にプレゼンテーション資料を作成するための道具であるPowerPointの基本操作を習得することを目的としている。チームでプレゼンテーションを行い、学生に評価をしてもらう。											
成績評価方法											
試験・課題 20% 試験と課題を総合的に評価する 成果発表 70% 授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する （口頭・実技） 平常点 10% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する											
履修上の注意											
授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。欠席は基本的に認めない。授業に出席するだけでなく、社会人として働くことを前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。課題によってはグループでの作業を行うため協調性も評価の対象となりうる。プレゼンテーションを聞く態度も評価の対象となりうる。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
30時間でマスタープレゼンテーション+PowerPoint2016											
回数	授業計画										
第1回	プレゼンテーションの必要性、プレゼンテーションの作成方法が理解できる										
第2回	プレゼンテーション全体のストーリーのまとめ方、情報収集の仕方が理解できる										
第3回	簡単なプレゼンテーションシートが作成・編集できる。スライドショーができる										
第4回	グラフが作成できる。写真、動画、音声など、ビジュアルコンテンツが作成できる										
第5回	アニメーションを使って効果的なプレゼンテーション資料を作成できる										

2022年度 日本工学院専門学校	
A I システム科	
プレゼンテーション	
第6回	提示された発表課題に対してアイデアをまとめる。ブレインストーミングができる。カード化できる
第7回	(1) で出されたアイデアを「プレゼンテーションストーリーシート」にまとめることができる
第8回	ストーリーシートに基づき、PowerPointを使って発表資料を作成できるようになる
第9回	発表者に伝わる効果的な発表資料にまとめられる
第10回	発表資料を基にプレゼンテーションのシナリオが作成できる
第11回	プレゼンテーションのリハーサルを行い、改善点をフィードバックできる
第12回	プレゼンテーションを実施し、自己評価および他社評価ができる
第13回	プレゼンテーションを実施し、自己評価および他社評価ができる
第14回	プレゼンテーションを実施し、自己評価および他社評価ができる
第15回	ビデオによる自己評価ができる。聞き手からのフィードバックを素直に聞き入れ改善できる